

令和3年度 事業報告書

事業の概要

令和3年度は、次の事業を実施した。

1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第36回日本精神保健会議)」の開催

今年度は、「新型コロナウイルスと女性、家族、社会～生きやすい街づくりのためにできること～」をテーマに、昨年引き続き新型コロナウイルス感染防止の観点から、東京有楽町の朝日ホールでの開催を取りやめ、Zoomを利用したオンラインで実施した。

今回のメンタルヘルスの集いでは、コロナ禍での女性、家族、社会に焦点を当て、外出・集会の制限や社会活動の停滞、二次的な風評などによる家族の密着と分断、社会関係の断絶、失業や貧困の増加が、人々のメンタルヘルスにどのような影響をもたらしたか、そしてコロナ禍の不安が残る中でもメンタルヘルスを保つための方略や施策について議論した。コロナ禍では多くの方がなくなり、また死の恐怖と闘い生還した。改めて「生きる」ということについて考え、たいへんな環境下で生きやすい街づくりのために何ができるかを考えることとし、以下のような内容で実施した。

フォーラムは上別府圭子氏が委員長になり、高塚雄介、岡本淳子、西大輔、松本和子、倉島徹の各氏が準備委員として企画した。

なお、本フォーラムは「令和3年度健康や命を守る医療の活動」として、公益財団法人JKAよりオートレース公益資金の補助を受けて実施した。

メンタルヘルスの集い（第36回日本精神保健会議）

日 時：令和4年3月5日（土） 13：00～16：30

テーマ：新型コロナウイルスと女性、家族、社会
～生きやすい街づくりのためにできること～

内 容：特別講演「いのちをみつめて」

柏木哲夫（ホスピス財団理事長・淀川キリスト教病院名誉ホスピス長・大阪大学名誉教授）

シンポジウム

「メンタルヘルスと自殺予防ーコロナ禍から見えてくることー」

張賢徳（日本うつ病センター・六番町メンタルクリニック院長）

「若草プロジェクトの活動」

大谷恭子（弁護士・アリエ法律事務所）

「コロナ禍における生活困窮者支援の現場から」

稲葉剛（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）

「新型コロナウイルスと女性・家族・社会」

富岡史穂（コミュニティマネージャー・元朝日新聞記者）

コメンテーター

高塚雄介（公益財団法人日本精神衛生会理事）

コーディネーター

上別府圭子（一般社団法人子どもと家族のQOL研究センター代表理事）

西大輔（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野准教授）

参加者：全国から 378 名の申し込みがあり当日は 249 名の方が視聴した。

なお、このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」188号（令和4年6月15日発行）に収録する。

2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学や精神保健福祉関連団体等と共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しているが、本年度も新型コロナウイルスの感染が終息していないため、オンラインで下記のとおり実施した。

●77回精神保健シンポジウム（北海道）

日時：令和3年10月16日（土） 13：00～16：30

開催方法：社会福祉法人浦河べてるの家に総合司会者と浦河在住の2人のシンポジスト、技術スタッフが集合し、その他の講師はそれぞれの持ち場からシンポジウムに参加し、Zoom ウェビナーを使用してオンラインで視聴者に配信した。

共催：第77回精神保健シンポジウム北海道実行委員会

テーマ：北海道における精神保健医療福祉の歩み

内容：基調講演

「北海道における精神保健医療福祉の歩み」

永井順子（北星学園大学社会福祉学部教授）

：シンポジウム

「俱知安町におけるこころのルネッサンス活動の実践」

筒井洋子（NPO 法人 Mimata 施設長）

「浦河べてるの家の活動について」

伊藤知之（社会福祉法人浦河べてるの家）

「日高東部地域における精神保健福祉活動の歩み」

高田大志（医療法人薪水浦河ひがし町診療所副院長）

「入院中心から地域生活中心へ

～帯広・十勝地域における実践から～

津田俊彦（社会福祉法人慧誠会帯広ケア・センター所長）

「千歳市における依存症者への治療と支援の現状」

芦沢 健（医療法人資生会千歳病院院長）

「ピアサポーター養成の経験から」

阿部幸弘（こころのリカバリー総合支援センター所長）

「北海道における患者会活動について」

宮岸真澄(NPO法人精神障害者回復者クラブすみれ会理事長)

: 指定発言

佐々木敏明（北海道医療大学看護福祉学部客員教授）

: 総合司会

向谷地生良（北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科教授）

参加者：138名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」187号（令和4年3月15日発行）に収録した。

3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

- ① 184号（令和3年6月15日発行） A5判136頁 2,000部
特集 第35回メンタルヘルスの集い
災害とメンタルヘルス～取り戻そう、つながりと暮らし、そして希望～
- ② 185号（令和3年9月15日発行） A5判128頁 2,000部
特集 with コロナ時代のメンタルヘルス
- ③ 186号（令和3年12月15日発行） A5判124頁 2,000部
特集 東日本大震災から10年
- ④ 187号（令和4年3月15日発行） A5判134頁 2,000部
特集 第77回精神保健シンポジウム（北海道）
「北海道における精神保健医療福祉の歩み」

4. 精神保健福祉関係冊子の出版

昨年度に引き続きこころの健康シリーズⅧとして、「国際化の進展とメンタルヘルス」のNo.9～No.12各B5判8頁）を以下のように発行した。なお、発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

- ① No.9 国際協力では海外に行く人が遭遇するメンタルヘルスの問題

東邦大学医学部 端詰勝敬 著

- 令和3年6月発行 2,000部
- ② No.10 大学生の留学時のメンタルヘルスー日本から海外へー
東京女子医科大学保健管理センター学生健康管理室 横田仁子 著
令和3年9月発行 2,000部
- ③ No.11 「外国人児童生徒」のメンタルヘルスー支援の現場からー
愛知教育大学日本語教育支援センター 菅原雅枝 著
令和3年12月発行 2,000部
- ④ No.12 新型コロナウイルスと外国人留学生
東京大学 相談支援研究開発センター 大西晶子 著
令和4年3月発行 2,000部

5. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として国内の精神保健福祉諸団体と精神保健福祉の推進に協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。